

地域と大学を結ぶ広報誌

# 城西

Vol. 17  
2016.6

ニュース

平成28年度入学式

## 創立精神を継承して 第二の建学の出発点に

 城西大学  
 城西短期大学

新しい薬用植物園 竣工式  
2種の温室や管理棟を整備

3・11の惨事を詠った詩人と俳人による座談会と詩の朗読会  
「荒ぶるゆりかご——3・11の惨事への詩的な応答——」

目次

- 02 [ニュース] 創立精神を継承して 第二の建学の出発点に 平成28年度入学式/学位記授与式/スポーツ優秀団体・優秀選手表彰式
- 04 [紀尾井町から] 座談会と詩の朗読会「荒ぶるゆりかご」 マレーシア大臣講演会 「マレーシアにおける高等教育のシナリオ」 「ヨーロッパ・カフェ」
- 05 [お知らせ] [ニュース] 新しい薬用植物園 竣工式 時事問題演習
- 06 [ニュース] [シリーズ] 高麗郡建郡1300年記念碑 除幕式 浮世絵「六玉川 調布の玉川」
- 07 [シリーズ] 先輩訪問 小名浜美食ホテル 代表取締役 鈴木泰弘さん
- 08 [シリーズ] 学生互版ワイド 学内外で活躍する城西人たち
- 10 [図書館だより]
- 11 [エリア紹介] 坂戸市 坂戸八坂神社夏祭り 毛呂山町 リオ五輪 瀬戸大也選手壮行会を開催 東武線沿線情報 東武東上線と尾瀬号で尾瀬へ出かけてみませんか

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙

春の雨もあがった4月4日、平成28年度の入学式が挙行されました。希望に胸を膨らませた新入生や保護者たちは、「桜の回廊」を通して、総合体育館に集い、各教室に分かれました。2388人がこの日、城西生としての第一歩を踏み出しました。



ニュース

# 創立精神を継承して 第二の建学の 出発点に

入学式

2016.4.4

## 友人をつくり平和を保全していく力を養って

— 水田理事長

満開の桜が祝福する中、平成28年度の入学式が2016年4月4日、総合体育館で執り行われました。大学院、学部、別科、短期大学、健康市民大学合わせて2388人が新たに城西の仲間入りをしました。

水田宗子理事長は式辞で、創立50周年を迎え新たな中期目標を策定していることに触れ、「第二次世界大戦による荒廃からの復興、新たな日本の再生に力を注いだ創立者の精神を継承し、第二の建学の出発点としたい」と述べました。また、国際教育センターや語学教育センターの各種プログラムに言及し、「こうしたプログラムに積極的に参加して国籍の異なる友人をつくり、他者とコミュニケーションできる語学力を身につけ、そして姉妹校の若者たちと協同して、平和と地球の環境を保全していく力を養ってください」と



式辞を述べる水田理事長

呼びかけました。

森本雅憲学長の告辞は草野素雄副学長が代読しました。「坂戸キャンパスには、目標に向け邁進する皆さんの先輩の姿があります。先輩に負けず劣らず、皆さんが各種の目標に向けて前進する姿を期待しています」と述べました。

来賓祝辞をいただいたハンガリーの海外姉妹校、センメルヴァイス大学のセール・アーゴシュトン学長から水田理事長に同大学の最高位の称号が贈られた返礼として、本学からアーゴシュトン学長に荣誉教授の称号を授与しました。

新入生を代表して経営学部の下谷亮太さんは「建学の精神に則り、しっかり考え、学び、社会に貢献できる人間となるべく実りある学生生活を送る」、短期大学の清水蘭子さんは「仲間とともに真摯に勉学に励み、学生生活が実りあるものとなるよう努力する」と、それぞれ誓いの言葉を述べました。



宣誓する下谷亮太さん



宣誓する清水蘭子さん

学位記授与式

2016.3.18

## 建学の精神を踏まえて一層の成長を

— 森本学長



平成27年度の学位記授与式(並びに卒業証書授与式、修了証書授与式)が2016年3月18日、総合体育館で執り行われました。この日、城西を巣立った卒業生は1594人で、卒業生総数は8万433人となりました。式典では学位記や証書が授与される=写真=とともに、学業やスポーツに特に素

晴らしい活躍をした学生たちが理事長特別表彰を受けました。

式辞で水田宗子理事長は「創立50周年を迎えた年に、このように多くの卒業生を送り出すことができ、私ども一同、大変感謝しています。肩書のない無名の若者であった時にしたこと、考えたこと、そして培った友情を大切にしてください。この時の経験が大切な人生の指針となってくれると思います」と、はなむけの言葉を贈りました。また、森本雅憲学長は「21世紀の国際社会の第一線で活躍することが期待される皆さんが、建学の精神、教育の理念を踏まえてさらに学問的研鑽と精進を積み重ね、より一層大きく成長されることを心から願います」と述べました。

これに対し学生代表の戸塚優樹さん(経済学部)と遠藤元望さん(短期大学)が「様々な経験を弾みにして社会でも活躍できるように努力を継続していきたい」「学んだことを心に刻み、新たな一歩をここから踏み出します」などと答辞を述べました。

理事長特別表彰者は次の通り。(敬称略)

【学業賞】武者伸之(経済学部)▽加藤拓也(現代政策学部)▽奥山椋太(経営学部)▽川端明昌(理学部)▽大塚実奈(薬学部)▽尾方里帆(短期大学)【スポーツ賞】中里勇斗(現代政策学部・サッカー部)

この日は学位記授与式に先立ち、「ふくしま海洋科学館・アクアマリンふくしま」理事長兼館長である安部義孝氏に対する名誉博士記授与式も行われました。

ニュース

スポーツ優秀団体・優秀選手表彰式

2016.3.18

## 5団体と24人が表彰

平成27年度のスポーツ優秀団体・優秀選手表彰式が2016年3月18日、清光会館で開かれました。昨年度は5団体と選手24人が表彰を受けました。表彰式では森本雅憲学長、倉成正和学生部長の挨拶の後、それぞれの団体と選手に表彰状と記念の盾が贈られました。表彰を受けた団体と選手は次の通り。(敬称略、学年は3月現在)

【団体】女子駅伝部(関東インカレや日本インカレでの上位入賞など)▽男子ソフトボール部(関東大学選手権優勝など)▽女子ソフトボール部



表彰式後の記念撮影

(関東秋季リーグ準優勝など)▽サッカー部(関東大学大会準優勝など)▽陸上競技部(関東インカレ1600mリレー優勝など)

【個人】橋本顕太郎(現代政策学部4年)、生井永大(同)、大場翔太(同)、江田健太郎(経営学部4年)=以上、硬式野球部▽上田未奈(経営学部1年)、高沢真歩(現代政策学部1年)、福居紗希(同2年)=以

上、女子駅伝部▽河名真貴志(経営学部4年)、山本雄大(同)=以上、男子駅伝部▽川村知明(経営学部4年)、太田幸宏(現代政策学部4年)、黒沢勝也(同)、笹本健太(同)=以上、男子ソフトボール部▽齋藤美里(経営学部4年)、鮎澤愛(同)=以上、女子ソフトボール部▽池田政之(経営学部4

年)、中里勇斗(現代政策学部4年)、の場京(同)=以上、サッカー部▽佐藤勝太(経営学部4年)、佐藤拳太郎(同3年)、鈴木宏明(同)、堀井浩介(同)、鍛冶木峻(同2年)、渡部佳朗(同1年)=以上、陸上競技部



名誉博士の 安部義孝氏

安部氏は東京都恩賜上野動物園園長を経て2000年に同館長に就任し、現在は理事長も兼務。国際的な水族館ネットワークで中心的な役割を果たされているほか、地域に根ざし開かれた施設づくりにも努められています。昨年は本学で特別講演もしていただきました。

卒業報告会

## 「多くの方々の力になりたい」と決意

父母後援会共済事業学費補助受給者・東日本大震災支援金受給者

卒業式に先立ち、父母後援会から学費の補助を受けた卒業生11人と東日本大震災の被災支援金を受けた卒業生6人の報告会が清光会館で開かれました。報告会には、卒業生のほか、水田宗子理事長、森本雅憲学長、齊藤多美恵父母後援会長らが出席しました。

父母後援会の学費の補助を受けた新井雄介さん(薬学部)は、大学2年の時に父親を病気で亡くしました。新井さんは「薬剤師になることは父の夢であり、私の夢でもありました。父が亡くなる数日前に、『絶対、薬剤師になるから』とお別れしました。成長した姿を父に見せることは叶いませんが、卒業後は薬剤師として、生まれ育った地域に貢献し、父のように病気に苦しむ多くの方々の力になりたい」と決意を述べました=写真=。



また、大震災による土砂崩れで栃木県高根沢町の自宅が全壊したという鈴木健吾さん(薬学部)は「幸い家族は全員無事でしたが、震災当時は大学の卒業をきらめかけました。しかし、周囲の励ましや支援、両親の頑張りで本日を迎えることができました」と振り返りました。4月から地元の大学病院で薬剤師として働くという鈴木さんは「信頼される薬剤師を目指していきたい。多くの人に支えられ、助けられてきた恩を社会に還元できるよう精いっぱい頑張っていきたい」と抱負を語りました。

紀尾井町から

詩イベント開催 2016.3.11

「荒ぶるゆりかご  
—3・11の惨事への詩的な応答—」

3・11の惨事を詠った詩人と俳人による座談会と詩の朗読会

東日本大震災から5年の2016年3月11日、3・11の惨事を詠った詩人と俳人による座談会と詩の朗読会「荒ぶるゆりかご—3・11の惨事への詩的な応答—」が、東京紀尾井町キャンパス1号棟ホールで開催されました。国際現代詩センターが主催し、詩人や研究者、市民の方々、教職員・学生ら約300人が参加、震災の記憶を新たにしました。

登壇したのは、俳人の高野ムツオ氏のほか、詩人の新井高子、ジェフリー・アングルス、大崎清夏、白石かずこ、高橋睦郎、田中庸



朗読する谷川氏

朗読する白石氏

マレーシア高等教育担当大臣講演会 2016.4.6

「マレーシアにおける  
高等教育のシナリオ」

ハラル共同センターの設立を記念して講演

マレーシアのダト・スリ・イドリス高等教育担当大臣を招いた講演会が2016年4月6日、東京紀尾井町キャンパス1号棟のホールで開催されました。学術交流協定を結んでいるマレーシアのマネジメント&サイエンス大学との間で、イスラム教の戒律に沿ったハラルに関する共同研究を行うセンターを両大学に設立することになり、イドリス担当大臣はこの日の調印式に合わせて来日されました。

講演会に先立ち、水田理事長が「センター設立は両大学によって記念すべき出来事」と歓迎のスピーチ。イドリス担当大臣は「マレーシアにおける高等教育のシナリオ」と題した講演会でマレーシア

の大学教育の現状を紹介。ユーモアも交えながらのイドリス担当大臣の熱弁に、ホールを埋めた教職員や学生約160人が聴き入りました。

講演会に引き続いて、ハラル研究センターの調印式が行われ、水田理事長、モハマド・シュクリ学長がサインを交換。イドリス担当大臣からも立ち会いのサインをいただきました。ハラル研究をめぐるのは、化粧品分野で本学と埼玉県、県内の化粧品製造業者による産学官連携の取り組みが進められており、今回のマネジメント&サイエンス大学とのセンター設立によって、さらなる研究の成果が期待されます。

▲調印書を交わした水田理事長とシュクリ学長、イドリス担当大臣は左から3人目



座談会の様子

介、谷川俊太郎、田原、平田俊子、水田宗子理事長の10氏。学校法人城西大学出版会では、登壇した詩人たちが発表した詩を英訳した詩集「These Things Here and Now: Poetic Responses to the March 11, 2011 Disasters」(ジェフリー・アングルス氏編・訳)を刊行。今回のイベントは、刊行記念も兼ねて開催しました。

水田理事長が「アングルスさんの翻訳により、私たちの経験が広く世界の人たちに届くことは、大変素晴らしいことと思います」と挨拶。震災の発生した午後2時46分に、犠牲者の冥福を祈って1分間の黙禱を捧げました。

アングルス氏が「東日本大震災と日本詩歌」と題して基調講演。第1部の座談会(白石氏を除く10人)に続いて、朗読会が開かれました。高橋氏は今回の詩集のタイトルの元になった「いまここにこれらのことを」、大崎氏は「うるさい動物」、水田理事長は「青い藻の海」を朗読。谷川氏は「言葉は壊れなかった/流されなかった/ひとりひとりの心の底で」と綴る「言葉」などを読み上げました。最後に、白石かずこ氏が「海、陸、影、岩沼/津波、津波がやってきた」と詠う「海、陸、影、」を朗読。聴く者の魂を揺さぶるような朗詠に涙をぬぐう人の姿もありました。

「ヨーロッパ・カフェ」開催 2016.4.8

学生・教員など100人  
ローバック氏の話に聴き入る

ミシェール・ローバック・スウェーデン大使夫人を囲んでの「ヨーロッパ・カフェ」が2016年4月8日、東京紀尾井町キャンパス3号棟の国際会議室で開催されました。水田宗子理事長や本学と城西国際大学の役職教員、学生・留学生約100人が、飲み物やお菓子などを取りながらローバック氏の興味深いお話に聴き入りました



＝写真。フランス人のローバック氏は政治や経済を学び、スウェーデン人のマグヌス・ローバック氏と結婚。1982年から86年まで日本に滞在しました。スウェーデンでは投資銀行で働いたほか、夫のベルギー赴任時には再び大学に入り、情報コミュニケーションの修士課程を修了したキャリアがあります。

ローバック氏は日本での発見のほか、フランスやスウェーデンとの文化や食事などの違い、家族とのコミュニケーションや公私のバランスの取り方、日本の女性が直面している問題などについてお話しになり、「女性が出産後でも仕事に戻れるような環境をつくることによって日本の経済に大きな刺激を与えることができるでしょう」と結びました。学生からの質問にもユーモアを交えて丁寧にお答えになりました。

お知らせ

新しい薬用植物園 竣工式

関係者約300人が完成を祝う

新しい薬用植物園の竣工式が2016年3月2日、キャンパス近くの現地で執り行われました。創立50周年記念事業の一環で、来賓の方々をはじめ、工事関係者の代表者、地元の方々、教職員ら約300人が完成を祝いました。新薬用植物園は学生の勉強の場だけ



でなく、地域コミュニティや社会学習の場としても活用していきます。

薬用植物園は1973年、薬学部の創設と同時に



内覧する関係者

にキャンパス内に設置され、1980年には日本植物園協会に加盟。このたび新薬学部棟の建設に伴い、近くの高麗川左岸の敷地に移設しました。敷地面積は約3000平方メートル。一角に鉄骨造り2階建ての管理棟や鉄骨造り平屋建ての高屋温室と低屋温室を整備しました。栽培している植物は約800種類に上ります。

水田宗子理事長や森本雅憲学長らがテープカットをして完成を祝いました＝写真。記念祝賀会の挨拶で、水田理事長は「一つひとつの植物がその歴史を持つ、物語いっぱいの薬草園です。そこから学生の皆さんが、様々な物語を紡いでいってほしい」と語りました。近くの「かびら幼稚園」(土田典子園長)の年長の園児72人による合奏と元気いっぱいの合唱も披露され、祝賀会に花を添えました。

ニュース

水森かおりさんのコンサート 2016.5.25

“ご当地ソングの女王”  
名曲と爆笑トークを堪能

「城西万歳!」の声に会場から盛んな拍手

本学の卒業生で演歌歌手の水森かおりさんのコンサート「歌謡紀行」が5月25日、坂戸市文化会館で開催されました。「ご当地ソングの女王」と称される水森さん。ゆかりのご当地でのコンサートは8年ぶり(3回目)とあって、多くの市民やファンが詰めかけ、ヒット曲や昭和の名曲の数々と、司会者との爆笑トークを堪能しました。



開演前、水森さんに花束を贈りました

オープニングソングに続き、水森さんは「坂戸は日本で一番好きな所。楽しみにしていました。心をこめて歌わせていただきます」と挨拶。熱唱の間には、大学や駅伝部の活躍にも触れ、「坂戸は思い

出がたくさんある大事な場所。城西万歳!」と声を上げると、会場から盛んな拍手が起きました。

水森さんは東京都出身。短期大学卒業後の1995年、『おしろい

花』で歌手デビュー。2003年に発売した『鳥取砂丘』はロングヒットを続け、第45回日本レコード大賞金賞など数々の賞を受賞。その年のNHK紅白歌合戦に初出場を果たしました。昨年はデビュー20周年を紅白歌合戦13年連続出場で飾りました。

「時事問題演習」スタート 2016.4.11

就活で問われる「時事力」を養成

社会で必要とされている「時事力」を養うことを目的にした「時事問題演習A」が、現代政策学部で始まりました。毎日新聞社の寄付講座の一環で、一線活躍している専門記者らが講師を務めます。時代を考察する力をつけてもらうとともに、就職活動などで問われている「時事力」をつけてもらうことも目標です。4月11日のガイダンスには、2～4年生の約100人が参加。毎日新聞の内山勢編集委員が「震災報道と新聞記者の仕事」をテーマに新聞記者の仕事と新聞メディアの特性を説明＝写真。学生たちは、実際の警察署から出される報道連絡をもとに記事作りに挑戦しました。その後、政治、経済、暮らしや環境、社会分野のほか、国際分野についても学び、「ニュース時事能力検定」(準2級)も受験します。



ニュース

高麗郡建郡1300年記念碑 除幕式

2016.4.23

# 高麗王若光を顕彰する記念碑

高円宮妃殿下久子さまご臨席。水田理事長が記念植樹



奈良時代の高麗郡建郡時のリーダー、高麗王若光を顕彰する記念碑の除幕式と式典が2016年4月23日、日高市新堀の高麗神社で開かれました。式典には、高円宮妃殿下久子さまが臨席されたほか、柳興洙・駐日韓国大使、馳浩・文部科学大臣ら多くの来賓の方々が建立を祝いました=写真上。

記念碑は県内の歴史愛好家らでつくる「高麗若光の会」(朴仁

作会長)が、高麗郡建郡(716年)から今年で1300年を迎えるのを記念して建てました。式典には同会特別会員の水田宗子理事長も出席、記念植樹をしました=写真下。

記念碑は高さ1.4m、横2m。東国7国の高麗人1799人が武蔵野国に集められたのが高麗郡の始まりとする「続日本紀」の記述が刻まれています。朴会長は式辞で「高麗郡の存在を歴史の彼方に押しやるのではなく、日韓友好、韓日友好の歴史的な遺産としてしっかり評価すべきである」と述べました。

高麗郡建郡1300年をめぐっては、様々な催しが展開されており、5月21日と22日には、日高市主催で「高麗郡建郡1300年記念祭」が開かれ、記念式典や高句麗衣装を身にまとい行進する「にじのパレード」が行われました。



シリーズ

## 浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創立者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえない歴史の懐かしさを感じ取れます。当時の人物や風俗などが、生き生き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

### 『六玉川 調布の玉川』 鈴木春信

古来、歌枕として名高い六つの玉川をテーマに、それぞれの玉川にちなむ和歌を掲げ、その歌意を江戸風俗に置きかえて表した六枚揃いの「六玉川」。その一つが「調布の玉川」。娘が軽快な仕草で調布(東京都調布市)の玉川で布を晒している。藤原定家の和歌「たつくりや さらす垣根の 朝露を つらぬきとめぬ 玉川の里」(「拾遺愚草」)などが書かれてい

る。手ずから織った木綿を白くするため、川で洗い岸辺に干した。この布を晒す動きを舞踊に取り入れたものを布晒舞という。春信は実際の風俗よりも、舞踊の姿を強調したと見られる。

六玉川の六図がすべて揃うのは、メトロポリタン美術館と当館のみで、さらに当館の蔵本は保存状態が極めて良いという。

中判錦絵(縦27.7cm×横20.8cm) / 明和4(1767)年頃



シリーズ

## 先輩訪問

各界で活躍する卒業生を紹介する「先輩訪問」。今回は小名浜美食ホテル代表取締役の鈴木泰弘さん(49)を福島県いわき市小名浜の本社に訪ねました。

# 「信じてぶれない」 好奇心で何にでもチャレンジを



小名浜美食ホテル(株式会社アクアマリンパークウェアハウス)  
代表取締役 鈴木 泰弘さん (1989年 経済学部卒)

—「美食ホテル」とは。

「小名浜港のおいしいごはんや、お土産などをお楽しみいただく食のテーマ館なんです。ラテン語で旅人や、もてなすことを意味する“hospes”から名付けました。最初は、「一泊いくらすか」という電話がずいぶん来ましたが(笑)、今はもう地元では「ああ、あそこね」というところまで来ました」

—今の職業を選ばれた理由は。

「大学を卒業して入ったのが、地元のいわき商工会議所でして、そこで長年まちづくりを担当し、特に小名浜のウォーターフロントの再開発に携わりました。誘致活動を展開した水族館『アクアマリンふくしま』がオープン、第三セクターの物産館『いわき・ら・ミュウ』も出来て、最後に残ったのが美食ホテルがあるこのエリア。地域や行政と“親水空間”機能を高めるため、再開発の議論を進める中で、いわゆる食をテーマにした施設をつくらうと手を挙げたんです。震災前は、3施設合わせて年間250万人の交流人口がありました。

—そこにあの東日本大震災が。

「お客様や約30人の従業員は逃げて全員無事でしたが、3月の津波で建物は全壊しました。再開までの9カ月間で、新たなビジネスモデルをつくり直しました。待っている商売だけでは厳しいだろうと、従来の観光商業だけではなく、食品製造業への道に踏み出したんです。そこから生まれたのが、苦節5年でJRへの参入が認められた駅弁事業。『潮目の駅弁』の名前で常磐線のほか、東京駅でも販売しています。いずれは全国制覇を狙っています。『カニピラフ』『ウニピラフ』の冷凍食品や、特産にしたいSea級グルメ全国大会優勝の「カジキメンチ」も手掛けています。もうひとつが、美食ホテルの多店舗展開。神奈川県鎌倉市にも和食とイタリアンの店を出しています。震災直後、みんな困っている中、大切なお取引先様には、一括ですべての支払いを行いました。再開を期した“おけら”です。ゼロからのスタート。色々考えながら、色んな所に足を向けてなんとか

事業を再開しようと必死でしたね。震災から5年が経ちましたが、福島は原発事故もあって厳しいです。交流人口は震災前のまだ半分。多くの人に訪れていただきたいと思います」

—どんな学生生活でしたか。

「あまり誇れる学生生活を送っていません。当時、よく言われたのが“可山優三(優が3つ、可がたたくさん、成績最悪……)”なんですね。全然、まじめに大学に行ってなくて遊んでばかりいましたから。それでもサークルで志賀高原にスキー合宿に行っていたのが一番の思い出です。30～40人でバスを貸し切って1週間ほど。坂戸では毎晩ドンちゃん騒ぎ。当時のメンバーとは何かというと連絡を取り合っています」

—好きな言葉はありますか。

「特にないですが、震災で右往左往しているときに言い続けたのが、「信じてぶれない」ということです」

—後輩へのメッセージをいただけますか。

「学生時代の4年間でしかできないことが、いっぱいあります。時間を有効に使っていただきたいのと、好奇心を持ったことは何でもチャレンジしてもらいたいと思います」

### ■小名浜美食ホテル



2008年4月オープン。従業員約40人。2階は海のイタリアンのほか、すし海鮮などの浜ごはんなどの飲食店があり、1階にはお土産コーナーや国内、和物やマリンの雑貨売り場、駄菓子店などがある。隣接の小名浜潮目交流館には、小名浜の歴史や港の変遷などを展示した資料館が常設。各種のイベントにも利用できる。福島県いわき市小名浜字辰巳町43-9。TEL:0246-54-3409。

シリーズ

## 学生瓦版

城西大学広報委員会のメンバーが学内外で活躍する団体、個人を紹介する学生瓦版。今回もワイド版でお送りします。

### 学食と連携してアフリカの子どもたちをサポート ボランティア活動「TFT」代表 真崎遥平さん(経済学部3年)

食堂のメニューの売り上げの一部をアフリカに寄付するというボランティア活動「TFT(table for two)」。その活動はしっかりと後輩たちに引き継がれている。メンバーの活動は週2回が基本。月1回、学生食堂と提携して自ら考案したメニューを販売。メニューの売り上げのうち20円が寄付される仕組みだ。20円という金額はアフリカに住んでいる子どもの1食分の給食を賄える金額。アフリカの子どもたちを少しでもサポートしようというのが、この活動の出発点だった。

昨年は、TFTメニューが800食売れたという。それを踏まえて、今年は1000食という目標を掲げている。多くの学生に知らうため、図書館にポスター掲示も考えているそうだ。他の大学と交流するなど、情報交換も行っている。

「TFTに入らなくても、水の無駄遣いに注意するだけでTFTと同じような活動をしていることになる。そのような意識を持って

生活していくことが大切だと思う。そして、ぜひTFTメニューを食べていただきたい」。代表の真崎遥平さん(経済学部3年)は、こう呼びかけている。

取材:編集局一同=松本昂芽(経済学部2年)



TFTのメンバー。後列中央が代表の真崎さん

### チームがだんだん形になっていく喜び ラクロス部 部長 中澤秀行さん(現代政策学部2年)

ラクロス部は、プレーヤー8人、マネージャー3人の計11人で活動していた。今年度は、新入生7人がプレーヤーとして、1人がマネージャーとして入った。全員が、大学に入ってからラクロスを始めた未経験者だった。

ラクロスの魅力について、ある部員は「高校までたくさんのスポーツをやってきたが、それは誰かに誘われたからというケースが多かった。しかし、ラクロスは初めて自発的にやりたい、もっとうまくなりたいと思えるスポーツだった」と振り返る。また別の部員は「チームを作ってだんだんと形になっていくのを感じるのも大きな喜び」と、ラクロスの魅力を語る。また、試合など通じて他大学との交流ができるのも大きな魅力だという。

練習場所は大学近くで、週4回活動している。部長の中澤秀行さん(現代政

策学部2年)によると、今後の目標は、何年かかけて“城西大学=ラクロス”、“ラクロスをやりたいと城西に来た”という学生が出てくることだという。勧誘活動も随時しており、TwitterなどSNSでも情報を公開している。

取材:放送局一同=前田真杜(現代政策学部2年)



ラクロス部。中央が部長の中澤さん

### よく学び、よく遊ぶ 簿記学習を通じて人間形成 「蛭川簿記塾」代表 小林大翔さん(経営学部4年)

サークル「蛭川簿記塾」は、簿記の学習を通じた人間形成を目標に日商簿記検定1、2、3級の学習とプレゼンテーション活動を行っている。昨年から英会話も導入し、世界で活躍できる人材の育成にも力を入れているという。4年14人、3年6人、2年6人、1年14人の計40人の部員がおり、経営学部の蛭川幹夫教授の指導を受けている。昨年は1級に2人が合格した。

長期休暇では、午前10時から午後4時まで各級別にプレゼン活動を行っている。終盤には全員参加のレクリエーションや旅行などがあり、「よく学び、よく遊ぶ」メリハリのあるサークルとして仲間同士の交流を大切にしている。プレゼン活動を通じてコミュニケーション能力、協調性、自学力、忍耐力、社会人



塾の合宿旅行で記念撮影

※広報委員会ではニュース・話題を募集しています  
jukoho1@gmail.com

としての基本的なマナーなど多くのことを学ぶことができ、人間性を大きく成長させることができるという。プレゼンがうまくいかなかった時や点数が伸びない時は、仲間が手を差し伸べてくれ、つらさを楽しさに変えてくれる環境があるようだ。

代表の小林大翔さん(経営学部4年)は「簿記塾ではメンバーを募集しています。退屈な大学生活を抜け出し、蛭川簿記塾で充実した大学生活を送りましょう」と語ってくれた。

取材:渉外局一同=宮田諒汰(経営学部4年)

### 気高く自由な発想が集う場所

文化系クラブ「貴雲塾」部長 三木将太さん(経営学部3年)

文化系クラブ「貴雲塾」は、陶芸のお皿や湯飲み、シルバークロケットなど季節によって色々なものを作っている。部員は24人で毎週水曜日の放課後に学友館1階の西側で活動している。

貴雲塾の名前には、貴族のように気高く、雲のような自由な発想をもった者の集まる場所という意味が込められている。作陶中は、独特の空気感が流れる。作品が出来上がるのに約1カ月かかる。まず湯飲みや皿などの形を作る。その次に成形したものを約3日間乾燥させ、800度に熱した窯で焼き上げる。その後、色付けをし、また焼き上げて完成だ。始めたばかりのころは、作品が途中で割れてしまったりして苦労したという。一枚のお皿をちゃんと作れるまでには1年はかかるという。作った作品は高麗祭などで展示や販売を行ったり、自分で持ち帰ったりしている。

部長の三木将太さん(経営学部3年)は陶芸の魅力「自分で好きな形に創造でき、世界にひとつだけの物を作れるところ」と語る。学生時代に伝統文化に触れることができるというのはとても貴重な体験だろう。何かに打ち込みたいという人は、ものづくりの世界に踏み入ってみるのもいいかもしれない。

取材:財務局一同=山路泰地(経営学部2年)



左から2人目が部長の三木さん

図書館だより

学生アドバイザー委嘱式を行いました

4月28日に学生アドバイザー委嘱式を行い、橋本フミ恵館長から委嘱状が授与されました＝写真。今年度のメンバー7名のうち6名が新メンバーで、大学院留学生も加わりました。橋本館長からは「今までの先輩同様、自分自身も成長できるようにたくさんの経験をして

ほしい」、関俊暢副館長からは「専門のデータベースがたくさんあるので、勉強して学生へのアドバイスを活かしてほしい。留学生目線での国際化を目指した意見を聞かせてほしい」と激励の言葉をいただきました。



図書館ガイダンスを実施中

毎年実施している図書館ガイダンスは年々実施回数が増え、昨年度は98コマ、2268人の学生が受講しました。1年

生を対象にした基本編ガイダンスは、館内の資料や施設を見学後、テーマに沿った本を自分で見つけ出す体験と、さら



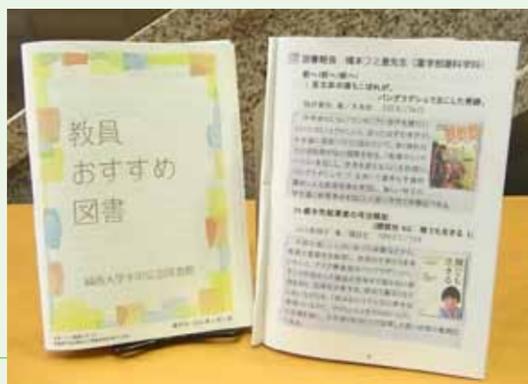
らにパソコンで効率よく本を探す実習をしています＝写真。また、レポート・論文作成のための応用編ガイダンスは、新聞記事検索や

各専門分野のデータベースを使って資料や情報を効率よく収集できる方法を習得しています。今年度も多くの学生が受講しており、実施後のアンケートでは、「高校とは比べものにならないほどの専門分野の本の量に驚いた。学生生活で興味をわいたことは、積極的に図書館を利用し知識を蓄えていきたい」「新聞の見方や資料の探し方がよく分かったので、論文執筆に利用していきたい」など、学習への活用につながる感想を得ることができました。

教員おすすめ図書の紹介小冊子ができました

図書館では読書推進活動として、教員のおすすめ図書を収集し1階で紹介しています。このたび、今まで推薦された図書103冊を推薦文とともに紹介した小冊子を作成しました＝写

真。専門分野に関連する図書だけではなく幅広い分野の図書が紹介されていますので、新しい本との出会いを楽しんでいただけだと思います。



就職課共催の就活DVD上映会を開催

4月20～27日に視聴覚室において就活に役立つDVD上映会を開催し、42人の学生が参加しました。今回は「面接対策DVD」と「就活ドキュメンタリー」を

上映し、参加者はメモを取りながら真剣に視聴しました。アンケートには「面接についてたくさん知ることができた」「今回のように上映期間が長いと助

かる」といった声が寄せられ、就職課職員からのワンポイントアドバイスや図書館職員による業界・企業研究に使える資料の紹介も好評でした。

エリア紹介

坂戸市

坂戸八坂神社夏祭り

坂戸八坂神社夏祭りは通称「夏祭り」と呼ばれ、坂戸神社にまつられている八坂神社のお祭りです。大神輿の渡御がお祭りの中心＝写真＝で、天王様を乗せる大神輿を担ぎ出し、入魂することから始まります。現在は屋台・山車の曳行や囃子の奉納も行われます。大神輿の渡御については、明確な記録はありませんが、江戸時代から続くものとされています。



一方、屋台・山車の曳行は、大正時代から始まり、昭和初年に各町内に揃い、現在の夏祭りの原形が整えられました。今は行われていませんが、昭和30年代までは獅子が家々をめぐっていました。また、昭和20年代末に新しい町内会が組織され、それらを母体に子ども神輿の渡御も行われるようになりました。

坂戸の一丁目から四丁目と粟生田の5つの町内が行う囃子は、市指定無形民俗文化財に指定されています。

坂戸の夏を盛り上げるお祭りに、ぜひお越しください。

東武線沿線情報

東武東上線と尾瀬号(高速)で尾瀬へ出かけてみませんか



東武東上線の往復乗車券(各駅～川越間)と関越交通高速バス「尾瀬号」の往復乗車券(川越駅西口～尾瀬戸倉・大清水間)に、指定の山小屋などで使用できるお買い物券500円分がセットになったお得なプラン。往路は夜行便を利用した夜行日帰りプランと、朝便を利用した往復のプランが選べます。復路は2便からお選びください。旅行申込時に限り復路乗車日を4日目(最終帰着日は10月16日)まで変更可能。山小屋の手配も別途承ります。

(夜行便)川越西口23時30分発→尾瀬戸倉3時30分着・大清水3時50分着  
(朝便)川越西口8時05分発→尾瀬戸倉10時50分着・大清水11時10分着

【旅行代金】  
(大人お1人様)6,900円～7,700円  
※出発駅・出発日により異なります。

◆ご予約・お問い合わせ  
東武トップツアーズ各支店または  
東武トップツアーズWEB販売センター  
☎03-5843-9600  
(平日10時30分～19時00分、土日祝10時30分～18時00分)

編集/学校法人城西大学 広報センター  
発行/城西大学 総務部総務課  
〒350-0295  
埼玉県坂戸市けやき台1-1  
TEL049-271-7712  
http://www.josai.ac.jp

毛呂山町

リオ五輪 瀬戸大也選手壮行会を開催

毛呂山町出身の競泳選手で、「もろやま町観光大使」を務める瀬戸大也選手が、今年8月開催のリオデジャネイロ・オリンピックに出場します。

毛呂山町では、「リオ五輪瀬戸大也選手支援会」を立ち上げ、4月24日に壮行会を開催＝写真。梅原孝之コーチとともに瀬戸選手に会場いただき、同観光大使のサスケの新曲「エールソング」の演奏や、応援メッセージの寄せ書きなどを贈りました。瀬戸選手は、約600人の町民の前で、オリンピックでの活躍を誓いました。

今後、支援会では、瀬戸選手が出場する、



400m個人メドレーと200mバタフライの2種目の決勝(8月7日(日)および8月10日(水))ともに午前10時ごろから)で、パブリックビューイングを開催予定。また、リオ五輪瀬戸大也選手支援会では、リオデジャネイロ・オリンピック終了まで新規会員を募集しています。詳しくは、毛呂山町公式ホームページをご覧ください。